

宮城公子教授主要業績一覽

著 書

- 一. 『大塩平八郎』 朝日新聞社 一九七七年
- 二. 『幕末期の思想と習俗』 ペリかん社 二〇〇四年
- 三. 『大塩平八郎』(増補改訂版) ペリかん社 二〇〇五年

責任編集・翻訳(共訳)

- 一. 『大塩中斎・付佐藤一斎』(日本の名著二七) 中央公論社 一九七八年

論 文

- 一. 「和魂洋才―日本の近代化における倫理的主体の可能性と現実―」 『日本史研究』七二号 一九六四年
- 二. 「儒教の自己変革と民衆―大塩平八郎について―」 『史林』四九卷六号 一九六七年
- 三. 「士族民権の抵抗の論理」 『日本歴史』二二九号 一九六七年
- 四. 「日本の近代化と豪農―杉田仙十郎・定一について―」 『日本史研究』九五号 一九六八年
- 五. 「変革期の思想」 『日本史研究』一一一号 一九七〇年
- 六. 「変革期の思想」 「一九六九年度日本史研究会大会特集号」 『講座日本史』第四卷 東京大学出版会 一九七〇年
- 七. 「一つの兆民像―日本における近代的世界観の形成―」 『日本史研究』一四三号 一九七四年
- 八. 「大塩の乱と民衆」 『四天王寺女子大学紀要』八号 一九七五年

九. 「幕末朱子学の性格」

一〇. 「幕末儒学史の視点」

一一. 「山田方谷の世界」

一二. 「吾無国自由存処是我郷里」

一三. 「誠意のゆくえー大橋訥庵と幕末儒学ー」

一四. 「日本の近代化と儒教的主体」

一五. 「幕末国学の性格ー六人部是香の場合ー」

一六. 「民権志士の政治文化」

一七. 「近世社会の転換期」

一八. 「幕末国学の幽冥観と御霊信仰」

一九. 「平田篤胤『古今妖魅考』の位置」

二〇. 「『玉櫛』ノートー平田篤胤と民俗学の世界ー(上)」

研究ノートその他

一. 「戦後日本思想史の研究史ー近代化過程にかぎってー」
特集「戦後歴史学総括運動のために」

二. 「諱は後素」

三. 第二章 近世中後期の向日地域

『四天王寺女子大学紀要』一二号 一九七九年

『日本史研究』二二二二号 一九八一年

『日本政治社会史研究』下巻 塙書房 一九八四年

『甲南大学紀要文学編』六三三号 一九八六年

『日本史研究』二八五号 一九八六年

『日本史研究』二九五号 一九八七年

「一九八六年度日本史研究会大会特集号」

『歴史と伝承』 ミネルヴァ書房 一九八八年

『思想』七九二号 一九九〇年

特集「儒教とアジア社会」

『要説日本歴史』 創元社 一九九五年

『甲南大学紀要文学編』一一三三号 二〇〇〇年

『甲南大学紀要文学編』一二四四号 二〇〇二年

『甲南大学紀要文学編』一二九九号 二〇〇三年

『歴史評論』二五〇号 一九七一年

『日本思想体系四〇』 佐藤一斎・ 一九八〇年

大塩中斎』月報 岩波書店

『向日市史』下巻 一九八五年

- 「五節 江戸時代の宗教」「六節 江戸時代の文化」
- 四 「明治革命とフェミニズム」
- 五 コラム「新宗教と女性霊能者」
- 六 「フェミニンな思想史を」
- 七 「宗教史のためのノート」尾藤正英「国民的宗教論」批判」
- 八 「楠木正成像の変遷」

書 評

- 一 藤谷俊雄『おかげまいりとええじゃないか』
- 二 今中寛司『近世政治思想の成立―惺窩学と羅山学』
- 三 今井宏『明治日本とイギリス革命』
- 四 松浦玲『横井小楠』
- 五 衣笠安喜『近世儒学思想史の研究』
- 六 源了円『近世初期実学思想の研究』
- 七 杉原四郎『日本の経済思想家たち』
- 八 藪田貫『男と女の近世史』
- 九 相蘇一弘『大塩平八郎書簡の研究』

- 『女性史学』三号 一九九三年
- 『アサヒグラフ別冊 シリーズ 二〇世紀 女性』朝日新聞社 一九九五年
- 『日本思想史研究会会報』一七 一九九八年
- 『甲南大学紀要文学編』一一七号 二〇〇一年
- 『甲南大学総合研究所叢書七四 神戸の歴史と文化』 二〇〇三年

- 『日本史研究』一〇一号 一九六八年
- 『史林』五六号 一九七三年
- 『日本史研究』一五二号 一九七五年
- 『日本史研究』一七二号 一九七六年
- 『立命館文学』三九四・三九五合併号 一九七八年
- 『日本史研究』二二三号 一九八〇年
- 『甲南経済学論集』三二 一九九一年
- 『女性史学』一〇号 二〇〇〇年
- 『日本歴史』六八五号 二〇〇五年